

平成26年度（第1回：滋賀県）国有林モニター会議 意見交換会の概要

【A：60代男性】

- 国有林で木質バイオマスや小水力による発電事業を行っているのか。

【局】

- 県や他の官庁から必要な許認可を事前にとったうえで当局の審査を通ったものについて、貸付などを行うことはあるが、国有林野事業で発電所建設や発電事業は行っていない。

なお、国では、民間のバイオマス発電等の取組を進めていくうえで補助金等による支援を行っている。

【A：60代男性】

- 全国の森林管理局でも同様か。

【局】

- 同様である。

【A：60代男性】

- 枝打ちなどの森林整備で出てくる国有林の木は、その後どうなるのか。

【局】

- 国有林では枝打ちはほとんど行っていないが、間伐などの森林整備により生じた末木枝条や端材をバイオマス発電所等へ供給している事例がある。

【B：50代女性】

- 福井県敦賀市の火力発電所では、石炭と木質バイオマスを混合燃焼して発電していると聞いたことがある。

【A：60代男性】

- 国有林から木材を供給しているのか。

【局】

- すべての木質バイオマス発電所に国有林材を供給しているわけではない。
仮に、5,000KWの発電所では年間約10万m³の木材が必要となるが、集材・運搬等へもコストが掛かり、どこへでも供給できるものではない。

- 間伐等により林内に放置されている未利用間伐材等は、全国で年間約2,000万㎡あり、何とか使ってもらいたい考えであるが、国有林では地域の協議会等へ参加し、木材を供給する立場で支援・協力を行っている。

【A：60代男性】

- 森林環境教育は、地域や学校を特定せずに広く行って欲しい。福井県での活動を聞いたことがないので是非お願いしたい。
- 大阪を中心に行われているようであるが、成果はあるのか。

【局】

- 森林環境教育は各府県に所在する森林管理署等で行っている。なお、箕面森林ふれあい推進センターでは森林環境教育等を専門に行っており、大阪府箕面市等で主に活動している。
- 国有林が持っている知識を提供し、地域で活用してもらえていることから、成果はあるものと考えている。

【C：60代男性】

- 森林環境教育を行うことは意義深いものであるが、日本の学校教育は、クラブ活動・学習塾などにより毎日が忙しく、子供、先生、地域の大人も「ゆとり」がないのが現状である。こうしたところに視点をおく必要がある。

【D：60代女性】

- 個人では国有林の場所も分からないため、こうした会議に参加できてよかった。一丈野国有林は、もともとハゲ山であった山を天然林に復元されており、家族やグループの皆さんが楽しんでいる様子が印象的だった。
- 知り合いの工務店に、日本で建てる家には日本の木材を柱に使うことをポリシーとされている方がおり、家の施工面で国産材の良さを説明されていたが、環境面の事も考えると国産材を使うことは良いことだと感じた。
木材自給率の面からも、もっと国産材を使ってもらえるようコマーシャルをすべきでは。

【E：60代女性】

- 外国産材より国産材が優れているというのは本当か。

【A：60代男性】

- 国産材を推奨される工務店等の方は、日本で生産された木材は、湿気の多い日本

の建物に合うということを主張されますが、外国産材を使用される方の主張へも耳を傾けるべき。

先日、スウェーデンハウスの展示場を見学しました。そこではスウェーデンの木材を使用していましたが、建築方式を変えることで、国産材を使うよりも環境に適応した建物の施工が可能と説明を受けた。

両方ともそれぞれに主張があり、どちらが正しいかは判断できなかった。

【E：60代女性】

- 日本中に外国産材を使用した建物はたくさんあるが、外国産材によるデメリットの話聞いたことが無い。日本人だから心情的には国産材を使用したいし、モニターへのアンケート結果からも、同じような考えの方がほとんどであった。

国産材、外国産材を比較したデータによる証明が無いのであれば、国産材がいいというコマーシャルを行うのは時期尚早ではないか。

【B：50代女性】

- 日本で生産したものを日本で消費することは、外国産材を使用する場合と比較すると二酸化炭素を増やさないため、環境保全につながるのではないか。

【A：60代男性】

- 日本の木は伐らないほうが、二酸化炭素の排出量は少ないのではないか。

【局】

- 国産材と外国産材との優劣について、現在の建築技術からすると、どちらが優れているかを判断することは難しい。大手ハウスメーカー等は、外国産材で日本の環境に適応すべく技術を兼ね備えている。

家を施工する場合、昔からの在来工法であれば、地域材を使って建てることで施主の「こだわりの家」として素晴らしいものができると思う。

- 国産材の消費が外国産材より二酸化炭素の排出量が少ない理由は、船による長距離輸送に係る二酸化炭素の排出量が抑えられるということ。
- 地球温暖化対策として、森林の整備による森林吸収源対策を行っているが、森林吸収量の計算では、伐採によるマイナス分と間伐により木が生長するプラス分を差し引くと、間伐を行った方が二酸化炭素を森林により固定できるという主旨から行っている。

【A：60代男性】

- 森林を伐採すると二酸化炭素は増えるという理解でよいか。

【局】

- 森林を伐採し、その後木材として使用されれば炭素は固定されるが、分解されれば空気中に放出される。

【A：60代男性】

- 林野庁では、森林整備に係る二酸化炭素の増減等のデータは持っているのか。

【局】

- 森林の状況や成長の早さは場所によって変わることから、個別の森林ごとの詳細なものではなく一般的なデータとして持っている。間伐の実施による二酸化炭素の削減量などは計算により求めており、国際的な査察団による数値の検証なども行われている。
- 京都議定書では、第1約束期間において温室効果ガス削減目標の6%分のうち3.8%を森林吸収源対策で確保した。第2約束期間では森林吸収源対策で平均3.5%を確保することとして取組んでいる。

【A：60代男性】

- 二酸化炭素の吸収量は木の種類によって違うのか。

【局】

- 一定時間で判断すると成長の良い木の方がより多くの炭素を貯蔵できる。

【E：60代女性】

- 資料を見てCLT（直交集成板）を初めて知った。もっと普及することを期待している。

【局】

- 海外ではCLTにより中高層建築物を自由な設計で作られている一面があるが、日本では建築物の一般的な設計基準が未整備であり、今後、建築関係の基準が整備され、CLTを生産できる業者も増えていくことで国内に普及していくと考えている。2020年に開催が予定されている東京オリンピック・パラリンピックの関連施設へCLTの活用を目指す動きもある。

【C：60代男性】

- 現在、地下水を公共的な資源と位置付けて守るための法律が無く、外国資本による地下水のくみ上げ、国外への持ち出しに歯止めが利いていない状況にある。外国資本の無秩序な水資源の採取に歯止めをかけ、森林や水資源の保全に大きな効果が期待できる法律が早期に制定されることを期待する。

- 日本の食料自給率（39％）が低いことに危惧している。

【F：50代男性】

- 国防の観点からも、食料自給率を上げていくことは重要。国民が安全で安心して暮らすための衣食住の基礎として、農業・林業・水産業は三位一体であり国防の要と考える。

【G：50代男性】

- 勤務先が紙製品を扱っている関係で、これまでに日本国内で植樹活動を行ってきた。企業が十数年前に植樹活動を始めた時は、山主の理解もなかなか得られなかったが、近年は国や都道府県等も熱心に協力してくれる。

環境に配慮した製品の販売額の一部が活動資金になっており、今後も取組を継続していく考えでいる。

【H：50代女性】

- カワウ対策に興味があり、今回モニター会議に参加できて良かった。

治山事業では、国有林は国、民有林は都道府県がそれぞれ対応すると聞いたが、近年、異常気象による土砂災害が多く発生しており、地方自治体だけでは対応できないことも増えてくると思う。国と自治体が連携を図り、山の麓でも安心して暮らせるようお願いしたい。

- 以前、ある和尚さんが、この寺は何百年という木の命を絶って建てた寺で、この寿命に見合うだけのものを作っているという話に感動を覚えたことがある。木にも命があって、大切に使うことの必要性を教育の中で教えていただきたい。

【I：40代女性】

- いろいろな場所を案内していただき、改めて自分の住んでいる滋賀県がすごく綺麗な場所なんだと実感した。自分の暮らしの中で何らかの形で関わっている環境について、何か自分にできることがないかを感じた。

- 一丈野国有林内のバイオトイレは、普通のトイレのように水が流れたが、どのような仕組みか。また、家庭への普及もあるのか。

【局】

- バイオトイレは、おがくずなどに棲まわせた微生物により排泄された糞尿を分解処理することが基本的な仕組みであり、今回ご覧いただいたトイレは、糞尿が浄化

され、浄化水がリサイクルされる循環式のもの。

- 一般家庭でバイオトイレを施工する場合、200～300万円の施工費が必要となり、現実的ではないと思われる。

【J：40代男性】

- 今回のモニター会議の参加者について、遠方の石川県、三重県、和歌山県の方がいなかった理由はなぜか。

【局】

- 石川県、和歌山県からの希望者がいなかったこと。また、参加希望者が多かったことから、モニター会議へ初参加の方を優先し、その後、抽選により選考を実施した結果によるもの。

【K：60代男性】

- 伊崎国有林では、もっとカワウ被害の深刻な様子が見れると思っていたが、巣をかけている状況も見れなかったのが残念だった。カワウの駆除はもっと行ってもよいのではないか。

【局】

- 今回見学した箇所は、カワウ被害地の植生回復を行っている区域であり、カワウとの共生を目指す区域では、巣や枯れた立木などの被害地を見ることができる。

【E：60代女性】

- 森林内の禁煙を徹底してほしい。

【局】

- 伊崎国有林では森林内の灰皿を昨年度すべて撤去している。また、国有林の案内看板などへも、森林内での禁煙を呼びかけており、山火事への注意喚起を行っているところ。